



た や ともぞう  
多屋 朋三 氏

生年月日 昭和 20 年 4 月 17 日生

住 所 田辺市下屋敷町

昭和 20 年、田辺市に生まれる。氏は、あおい書店の代表取締役として、一般的な書籍・雑誌等を販売する傍ら、主に明治・大正・昭和初期の郷土に関する史料の収集や研究、そしてそれらを元にした復刻版や郷土図書の刊行を長年続けてきた。

最新の刊行図書は、令和 2 年 6 月の『古の田辺・熊野古道の風景』（熊野歴史懇話会 // 企画 久保卓哉 // 解説 橋本観吉 // 監修 多屋朋三 // 彩色）であるが、過去の記録を紐解くと、これまで実に 40 年以上にわたり、営利を度外視して復刻版や郷土図書の刊行を続けられてきており、地方史研究に対する熱意とその実績は称賛に値する。

その代表例として、平成 29 年 1 月に発行された『日露戦争を伝える牟婁新報号外』（熊野歴史懇話会 // 編）が挙げられよう。この史料は、西牟婁郡田辺町（現田辺市）で創刊された地方新聞「牟婁新報」が発行した日露戦争に関する「号外」を復刻したもので、原本の総数 185 部に及ぶ貴重な一括史料である。「牟婁新報」については、社長・主筆である毛利柴庵や記者として在職した荒畑寒村や菅野スガ等の論説のほか、南方熊楠や大石誠之助なども有力な投稿者の一人として論陣を張るなど、その歴史的役割や時代背景、関係する人物の生きざまなど、その概要や歴史的価値を改めてここでは詳述しないが、不二出版から出された『牟婁新報復刻版』には、この「号外」が収録されておらず、「牟婁新報」や同時代を研究する関係者から高い評価を受けている。

また、この「牟婁新報」号外は、偶然、朋三氏が祖母の百回忌を迎えて持ち物を整理している際に長持の中から見つけたもので、その後、叔母から朋三氏に譲られたものである。原本となるこれらの史料は、その一枚一枚を長い紙に糊でつなぎ合わせた巻物の形で保存されており、約 40m にもなる長さであったが、少し触れるだけで破れるほど脆くなっていたことから、牟婁新報研究者の池田千尋氏（※第 49 回田辺市文化賞受賞者）の助言により、田辺市立図書館に寄贈して保存が図られることとなった。この時に氏は、斯界しかいに貢献するためにも号外 185 枚を一冊の本として出版すべきと決断したといい、今でも、その貴重な史料の発見と保存に対する行動

## 第 51 回 (令和 2 年)

に賛嘆の声が寄せられている。

地域の歴史や文化を伝える資料の中には、時の流れの中で忘れ去られたまま、あるいはその存在すら知られることもなく、私たちの前から消えていくものも少なくないが、氏は、当地方の歴史や記録を丁寧に掘り起こし、復刻資料として世に送り出してこられた。これまでの出版物が物語るように、氏の努力の積み重ねにより貴重な資料の保存が図られ、そして広く市民にその記録を目にすることを可能にしたその労力と熱意、功績の大きさは誠に多大である。

### (学 歴)

昭和 39 年 3 月 和歌山県立田辺商業高等学校 (現神島高等学校) 卒業

### (職 歴)

昭和 48 年 有限会社あおい書店 代表取締役

平成 20 年～ 熊野歴史懇話会を運営

(主な出版物 [※あおい書店として])

- ・ 『古の田辺・熊野古道の風景』  
2020/06 熊野歴史懇話会 // 企画 久保卓哉 // 解説 橋本観吉 // 監修 多屋朋三 // 彩色
  - ・ 『南部～紀伊名所図会他～』  
2019/12 山本 賢 // 監修 熊野歴史懇話会 // 編
  - ・ 『紀州における水産に関する伝承・ことわざ・ことば 紀州漁民の伝承と言葉図書』  
2019/09 木下虎一郎 // 著 熊野歴史懇話会 // 編
  - ・ 『御三家方御附複製版 文久武鑑図書』  
2018/08 熊野歴史懇話会 // 編
  - ・ 『紀州藩郷組一札 雛形と解説図書』  
2018/ 熊野歴史懇話会 // 編
  - ・ 『日露戦争を伝える牟婁新報号外』  
2017/01 熊野歴史懇話会 // 編
  - ・ 『熊野をめぐる文人たち』  
2011/07 熊野歴史懇話会 // 編
  - ・ 『日高郡西牟婁郡における樹木の方言』  
1999/ 富久 一 // 著者
  - ・ 『田辺方言訛語便覧 誠の根ざし 第 90 号付録』  
1984/ 浜本慶太郎 // 編
  - ・ 『紫の花天井に 南方熊楠物語』  
1982/ 楠本定一 // 著
  - ・ 『田辺 ふるさと再見』  
1980/ 田辺刊行会 // 編
- など多数